

2022年度上半期報告 説明資料

相互会社としての使命	P1	保険料等収入、金融機関窓販の状況	P8
経営の差別化の歴史	P2	資産運用の状況(富国生命単体)	P9
100周年に向けて	P3	基礎利益、経常利益・中間純剰余の状況	P10
新型コロナウイルス感染症への対応	P4	健全性の状況	P11
2022年度上半期報告のポイント	P5	オンバランスの自己資本強化と統合的リスク管理の推進	P12
保険業績の状況(2社合算)	P6 ~ P7	【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)	P13

富国生命保険相互会社

2022年11月24日

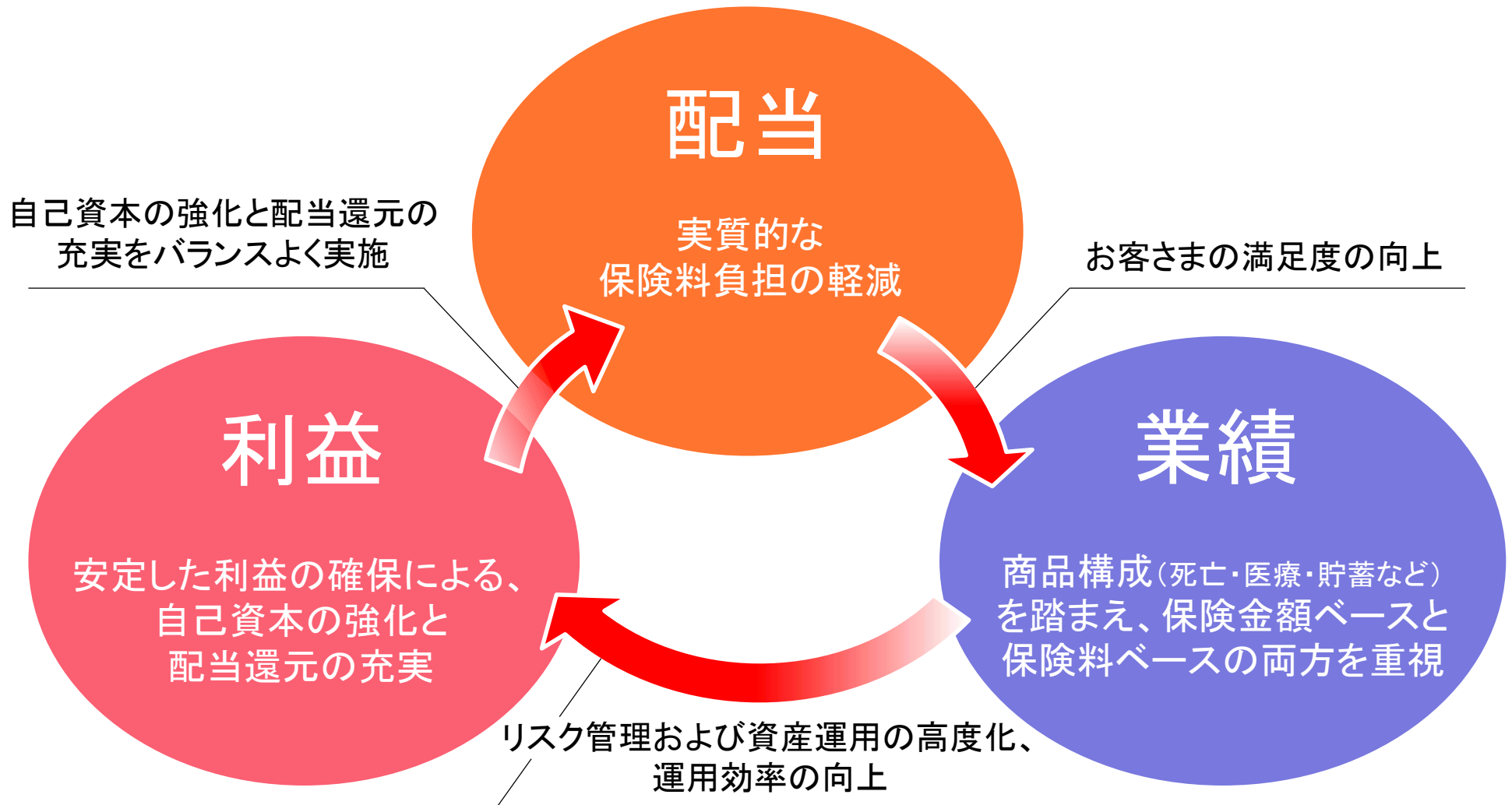


すてきな未来応援します

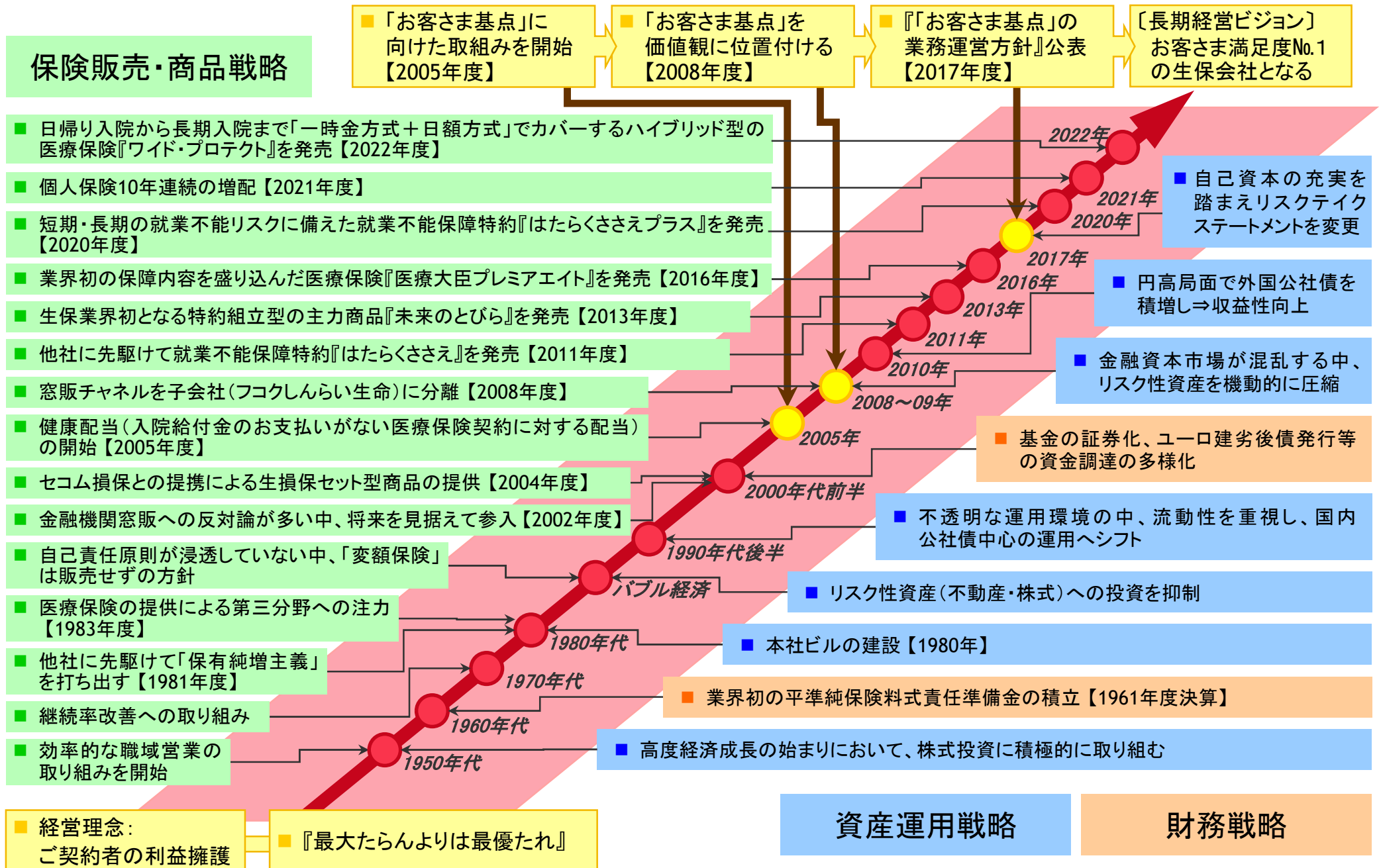
フコク生命

相互会社としての使命

安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてご契約者の実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、保険会社としていかなる時にも保険金等を確実にお支払いすることが最も重要な責務であると考え、実践しております。



経営の差別化の歴史



100周年に向けて

THE MUTUAL

次代の“相互扶助”を考える

「THE MUTUAL」(ザ・ミューチュアル)とは
共感・つながり・支えあいをベースとした
次の100年に向け進化する次代の“相互扶助”のこと
そして、富国生命に関わるすべての人のつながりを深め支えあう
真の“相互扶助”を体現する組織を目指す決意



「THE MUTUAL SONG」
ミュージックビデオ



おやさいクレヨン



YouTube

「THE MUTUAL Art for children」の取組み

- 「すまいる・ギャラリー」(全国の特別支援学校生徒の美術作品を内幸町本社ビル地下2階に展示する企画)の作品をデザインとして活用し、子どもたちと社会がつながるお手伝い
- おやさいクレヨンを製作し、保育園等に寄贈

100周年

- 「THE MUTUAL」の体現
- 富国生命に関わるすべての人と共感しあえる会社となる



創業

- 『保険事業の進むべき方向は、「ご契約者本位」しかない』という想いのもと相互会社として創業
- 創業以来、相互会社形態を貫く唯一の会社



100周年プロジェクトスタート

- 富国生命が考えていることや想いを、100周年プロジェクトのスタートアップとして宣言
- 100周年までの5年間で、次代の相互扶助を模索しながら発信していく



「THE MUTUAL SONG」制作

- 職員から集まった歌詞フレーズを紡いだ次の100年に向け歌い継がれる歌
- 総勢700名を超える職員が出演したミュージックビデオもあわせて制作

新型コロナウイルス感染症への対応

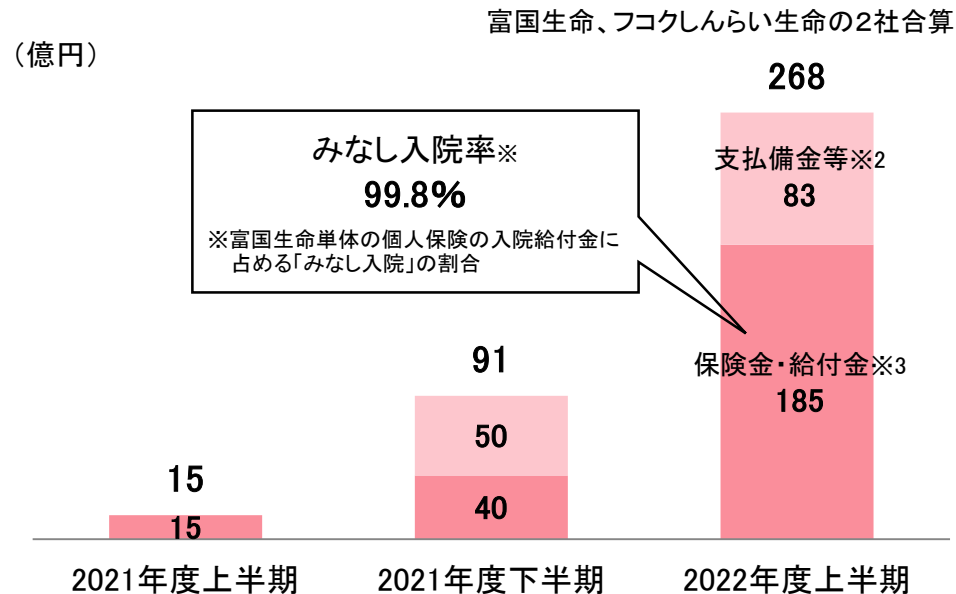
◆ 新型コロナウイルス感染症への対応における基本方針

- お客さまおよび職囑員をはじめとする人の命を最優先に考えること
- われわれの事業活動により、感染者が増えていくことは絶対に回避すること

◆ お客さまへの取組み

- ・ 新型コロナウイルス感染症を災害保険金等の支払対象として取扱い
- ・ 医療機関の事情等により入院できず、臨時施設等または自宅において療養された場合（「みなし入院」）でも入院給付金等をお支払い
→政府の方針を受け、9月26日以降、「みなし入院」による入院給付金等のお支払いの対象を重症化リスクの高い方のみに変更
- ・ 保険料払込猶予期間の延長、各種手続きの簡略化等の特別取扱いの実施
- ・ オンライン面談や各種資料の電子的送付システム等を導入し、お客さまへよりパーソナルな情報を提供
- ・ 第6波以降の感染拡大を受けて、支払部門の増員やシステムの増強を実施し、支払体制を強化

新型コロナウイルス感染症に係る給付金等※1の状況



※1 保険金および給付金の支払額(※3)と、期末までに新型コロナウイルスに感染したものの翌期にお支払いが見込まれる金額等(※2)の合計額

◆ 2022年度上半期の新型コロナウイルス感染症に係る給付金等の金額は268億円

◆ 9月26日以降、「みなし入院」による入院給付金等のお支払いの対象を重症化リスクの高い方のみに変更したことにより、今後の新型コロナに係る給付金等は大幅に減少する見通し

◆ 新型コロナに係る給付金等のうち約3%が重症化リスクの高い方に対するお支払いであり、約97%は今後お支払いの対象外となる

◆ 今後、当上半期と同程度の感染者数を想定した場合の給付金等は、数億円程度にとどまると見込む

2022年度上半期報告のポイント

1 新契約年換算保険料は増加

- ◆ 富国生命、フコクしんらい生命合算の新契約高は前年同期比7.4%減少、新契約年換算保険料は同17.3%増加、コロナ禍以前(2019年度上半期)の水準を上回る
- ◆ 富国生命の新医療保険「ワイド・プロテクト」およびフコクしんらい生命の利率更改型一時払終身保険の販売が好調
- ◆ 2社合算の解約失効年換算保険料は同9.4%改善、コロナ禍以前よりも良好な水準を継続

2 保有契約年換算保険料は増加

- ◆ 2社合算の保有契約年換算保険料は前年度末比0.1%増加、上半期では2016年度以来の増加
- ◆ 第三分野については同0.8%増加、2003年度の開示以来プラス伸展を継続

3 保険料等収入は増加

- ◆ 保険料等収入は2社ともに増加し、合算では前年同期比21.6%増加

4 新型コロナウイルス感染拡大(第7波)の影響により減益

- ◆ 2社合算の基礎利益は、基礎利益上の運用収支の増加により利差益は増加したものの、新型コロナウイルス感染拡大による給付金等の大幅な増加により、前年同期比69.3%減少

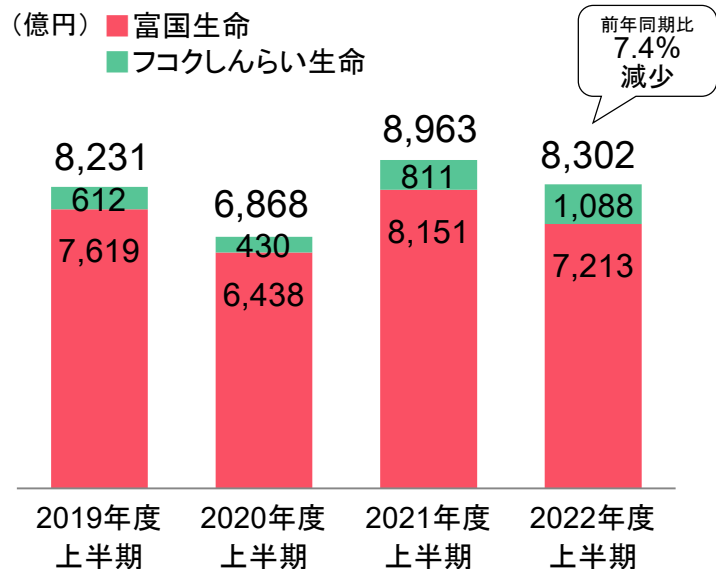
5 引き続き高い健全性を維持

- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は1,142.6%と前年度末比131.7ポイント低下したものの、引き続き高い水準を維持

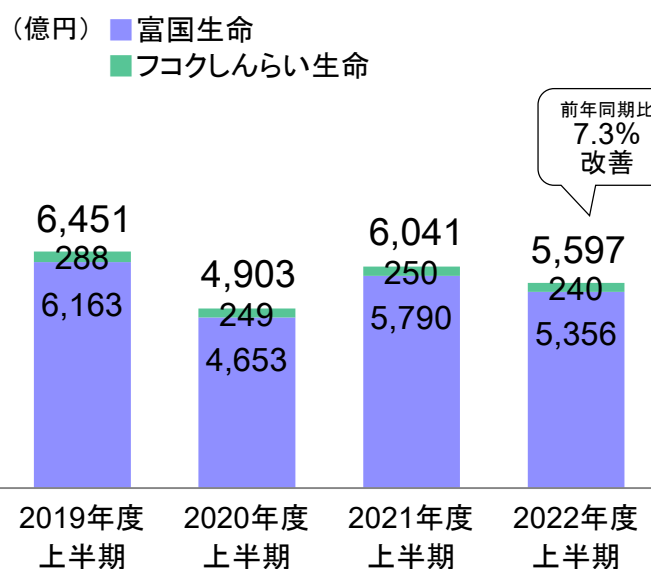
保険業績の状況(2社合算) 新契約・解約失効

※個人保険と個人年金保険の合計

新契約高

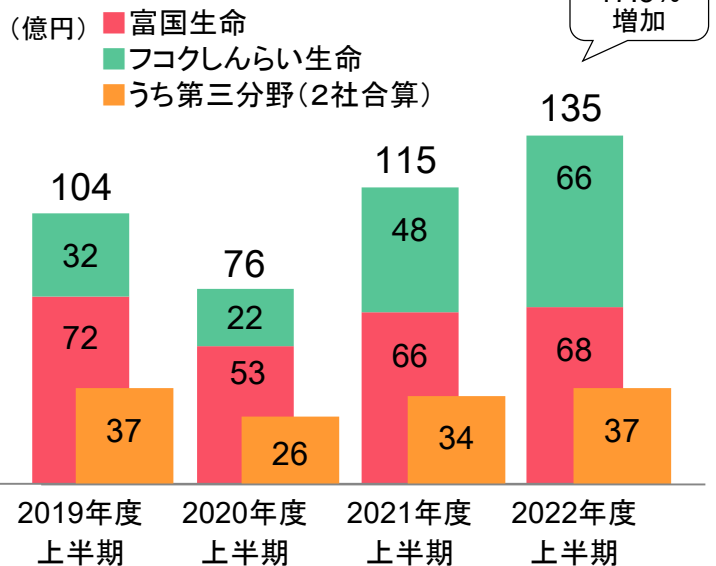


解約失効高

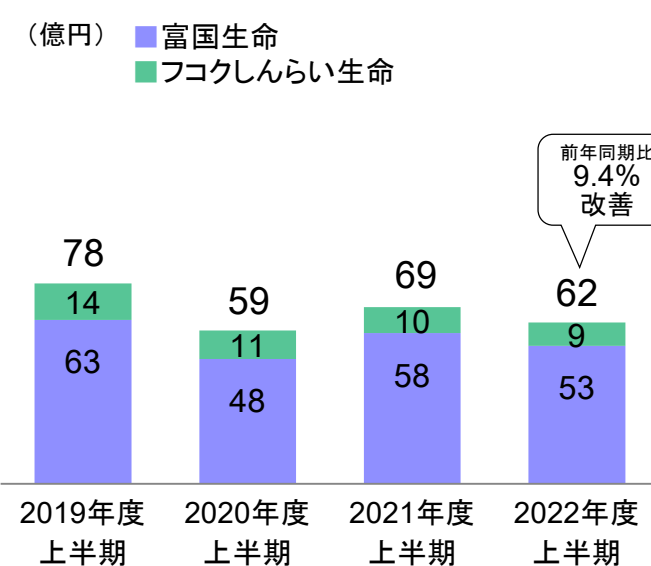


- ◆ 新契約高は、前年同期比7.4%減少
- ◆ 新医療保険の発売やコロナ禍における医療保障への選好の高まりにより、販売実績が医療保険にシフトしたことが主な要因
- ◆ 解約失効高は、同7.3%改善、コロナ禍以前より良好な水準を継続

新契約年換算保険料



解約失効年換算保険料



- ◆ 新契約年換算保険料は、前年同期比17.3%増加
- ◆ 新医療保険およびフコクしんらい生命の利率更改型一時払終身保険の販売好調が主な要因
- ◆ 解約失効年換算保険料は、同9.4%改善

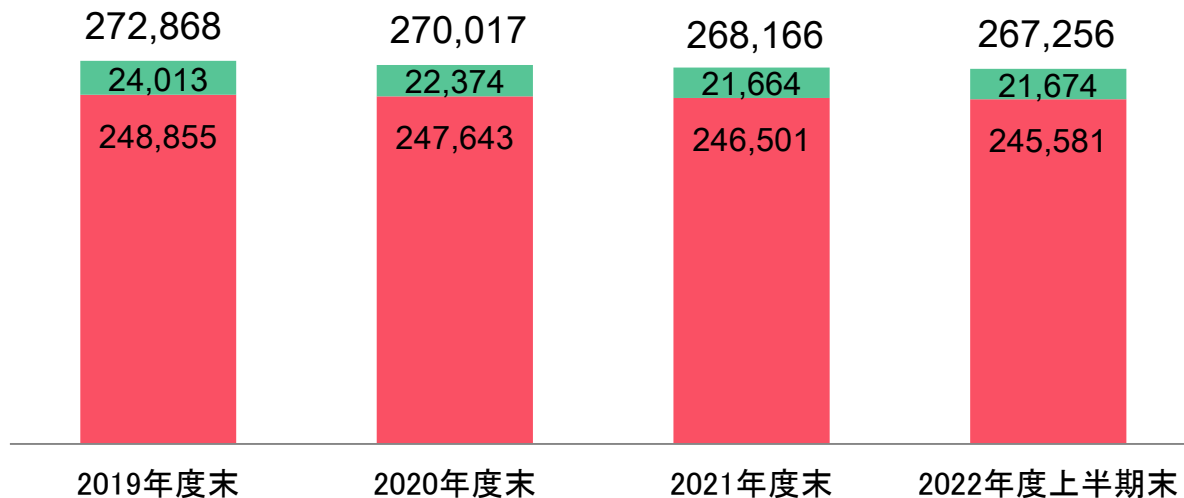
保険業績の状況(2社合算) 保有契約

※個人保険と個人年金保険の合計

保有契約高

(億円)

■富国生命 ■フコクしんらい生命

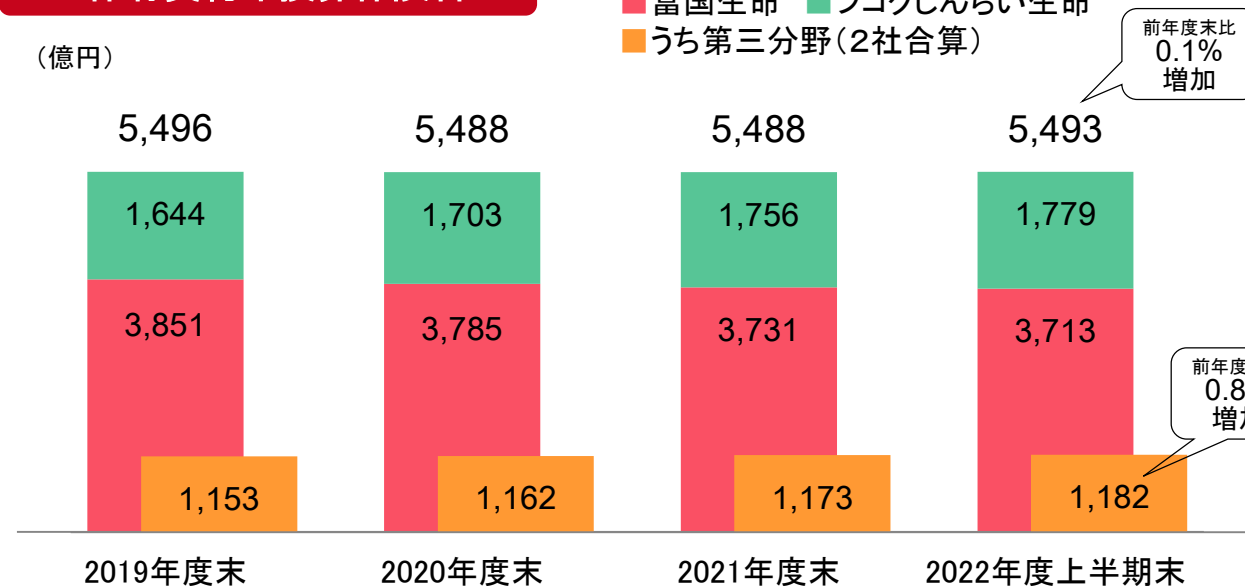


- ◆ 保有契約高は、前年度末比0.3%減少
- ◆ 減少幅は年々縮小しており、引き続き反転増加に向けて取り組む

保有契約年換算保険料

(億円)

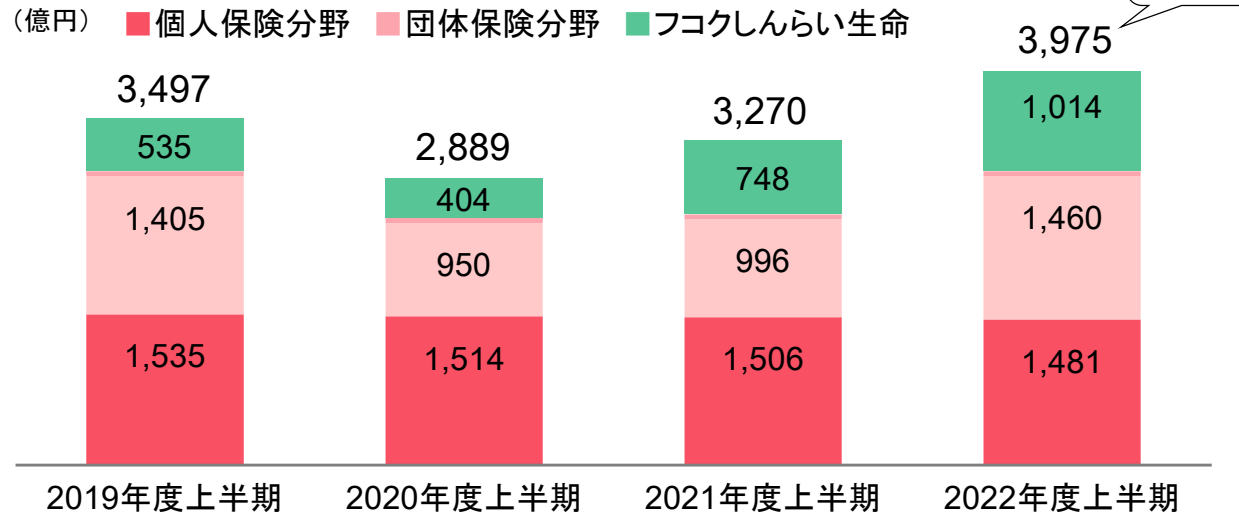
■富国生命 ■フコクしんらい生命
■うち第三分野(2社合算)



- ◆ 保有契約年換算保険料は前年度末比0.1%増加、上半期では2016年度以来の増加
- ◆ 第三分野の保有契約年換算保険料は、同0.8%増加、2003年度の開示以来プラス伸展を継続

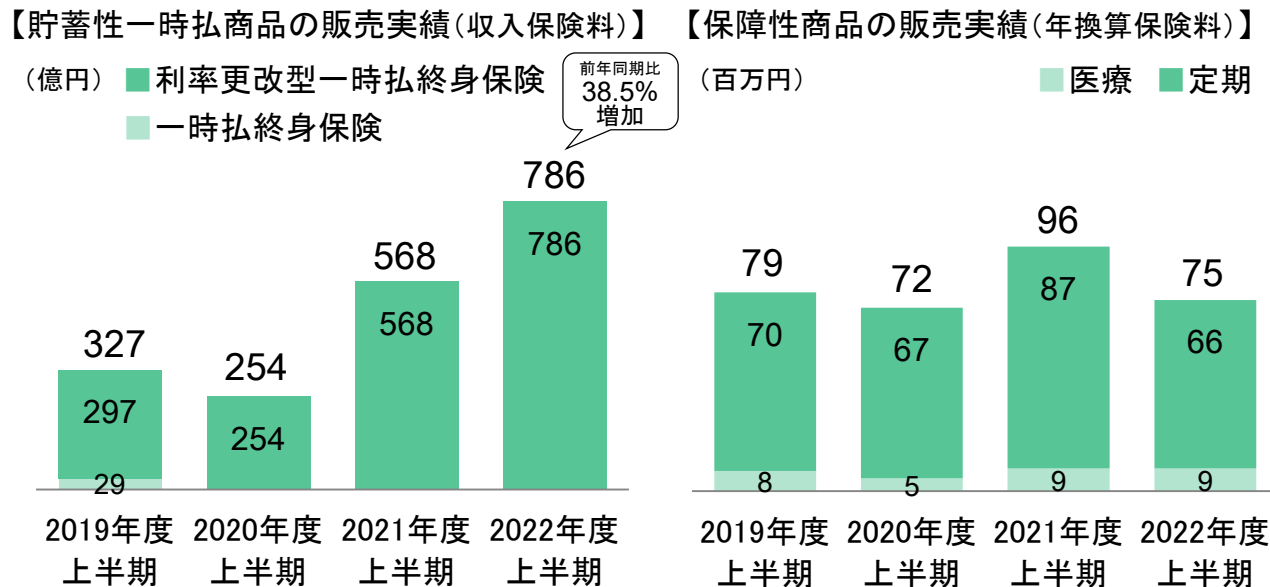
保険料等収入、金融機関窓販の状況

保険料等収入(富国生命、フコクしんらい生命合算)



- ◆ 保険料等収入は、前年同期比21.6%増加
- ◆ 団体年金保険およびフコクしんらい生命の利率更改型一時払終身保険の増加が主な要因

金融機関による保険販売実績(フコクしんらい生命)

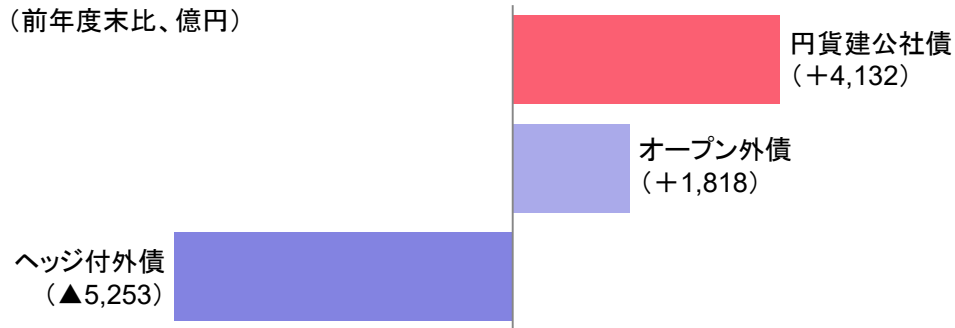


- ◆ 貯蓄性一時払商品の販売実績は、利率更改型一時払終身保険が好調に推移し、前年同期比38.5%増加

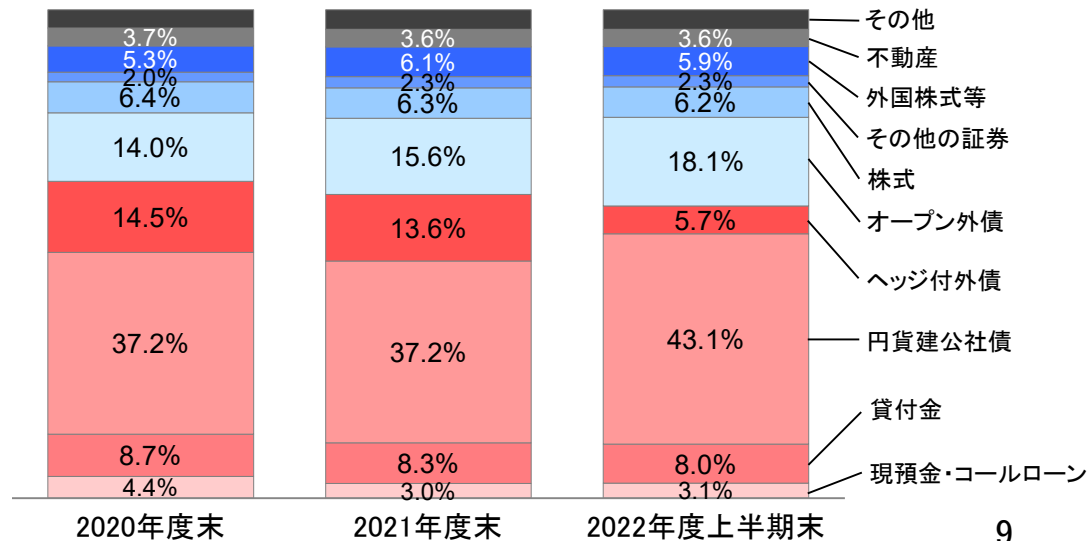
資産運用の状況(富国生命単体)

- ◆ 世界的なインフレ率の高まりに伴う各国の中央銀行の金融引締め加速などを背景に、金融資本市場の先行き不透明感が強いことを踏まえ、円貨建公社債を中心に資金を配分し、流動性の確保を第一とした資産運用を実践
- ◆ 内外の金利差拡大に伴う為替ヘッジコストの上昇により、収益性が低下したヘッジ付外債の売却およびオープン外債化を進めた
- ◆ 基礎利益上の運用収支は、円安や増配などによる利息及び配当金等収入の増加や、ヘッジ付外債の削減による為替ヘッジコストの抑制が寄与し、前年同期を上回る水準を確保

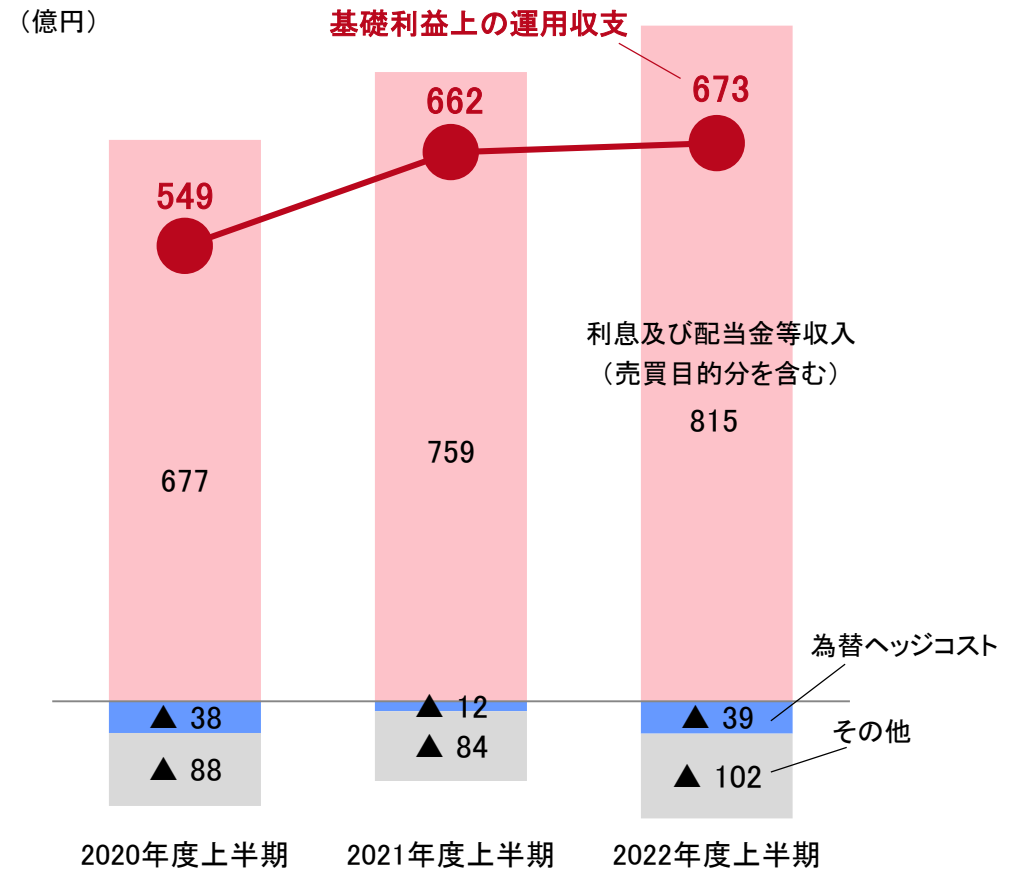
主な運用資産の帳簿価額残高の増減額



一般勘定資産の資産構成比(帳簿価額ベース)



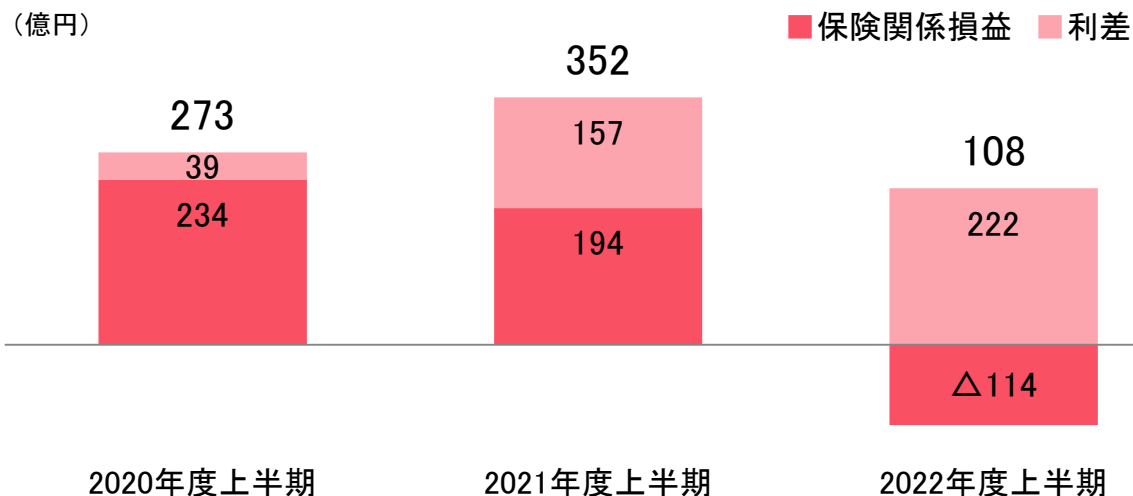
基礎利益上の運用収支の状況



※基礎利益上の運用収支の過年度分は、2022年度と同一の基準で算出している
 投信解約損益および償還時為替差損益が含まれず、為替ヘッジコストを含む

基礎利益、経常利益・中間純剰余の状況

基礎利益(富国生命、フコクしんらい生命合算)



※利差の過年度分は、2022年度と同一の基準で算出している

- ◆ 基礎利益は、前年同期比69.3%減少
- ◆ 基礎利益上の運用収支の増加により、利差益は増加
- ◆ 新型コロナに係る給付金等の大幅な増加により、保険関係損益は△114億円

- ◆ 今後の新型コロナに係る給付金等の影響は極めて軽微であるため、2022年度通期の保険関係損益はプラスとなり、基礎利益は改善する見通し

経常利益・中間純剰余(富国生命単体)

(億円)

	2020年度上半期	2021年度上半期	2022年度上半期
基礎利益	280	361	113
キャピタル損益	85	118	△0
臨時損益	△34	△39	△40
うち危険準備金繰入額	1	4	15
うち追加責任準備金繰入額	32	34	61
うち保険金等支払引当金戻入額	—	—	34
経常利益	331	440	72
特別損益	△26	△21	△18
うち価格変動準備金繰入額	18	18	18
中間純剰余	265	346	75

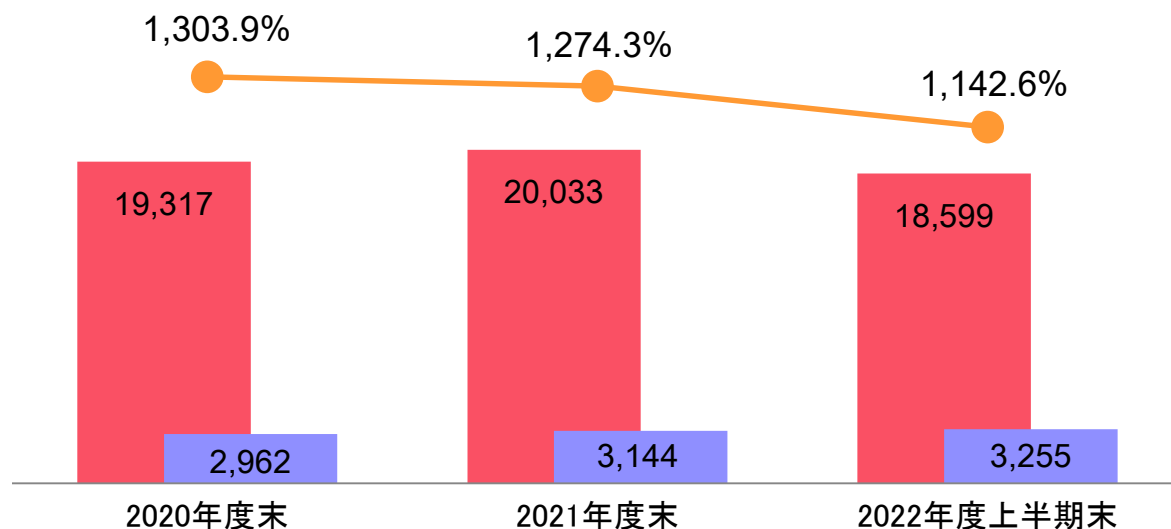
※基礎利益およびキャピタル損益の過年度分は、2022年度と同一の基準で算出している

- ◆ 経常利益は、基礎利益が減少したことなどにより、前年同期比83.6%減少の72億円
- ◆ 中間純剰余は、同78.1%減少の75億円

健全性の状況

連結ソルベンシー・マージン比率

(億円) ■ ソルベンシー・マージン総額 ■ リスクの合計額 ● ソルベンシー・マージン比率



- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末比131.7ポイント低下の1,142.6%
- ◆ 内外の金利上昇等によるその他有価証券評価差額金の減少に加え、ヘッジ付外債の一部をオープン外債化したことによる為替リスクの増加が主な要因

【ご参考】経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)(富国生命単体)

	2020年度末	2021年度末	2022年度上半期末 (速報値)
ESR	222.6%	228.9%	223.0%

- ◆ 経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)は、前年度末比5.9ポイント低下の223.0%

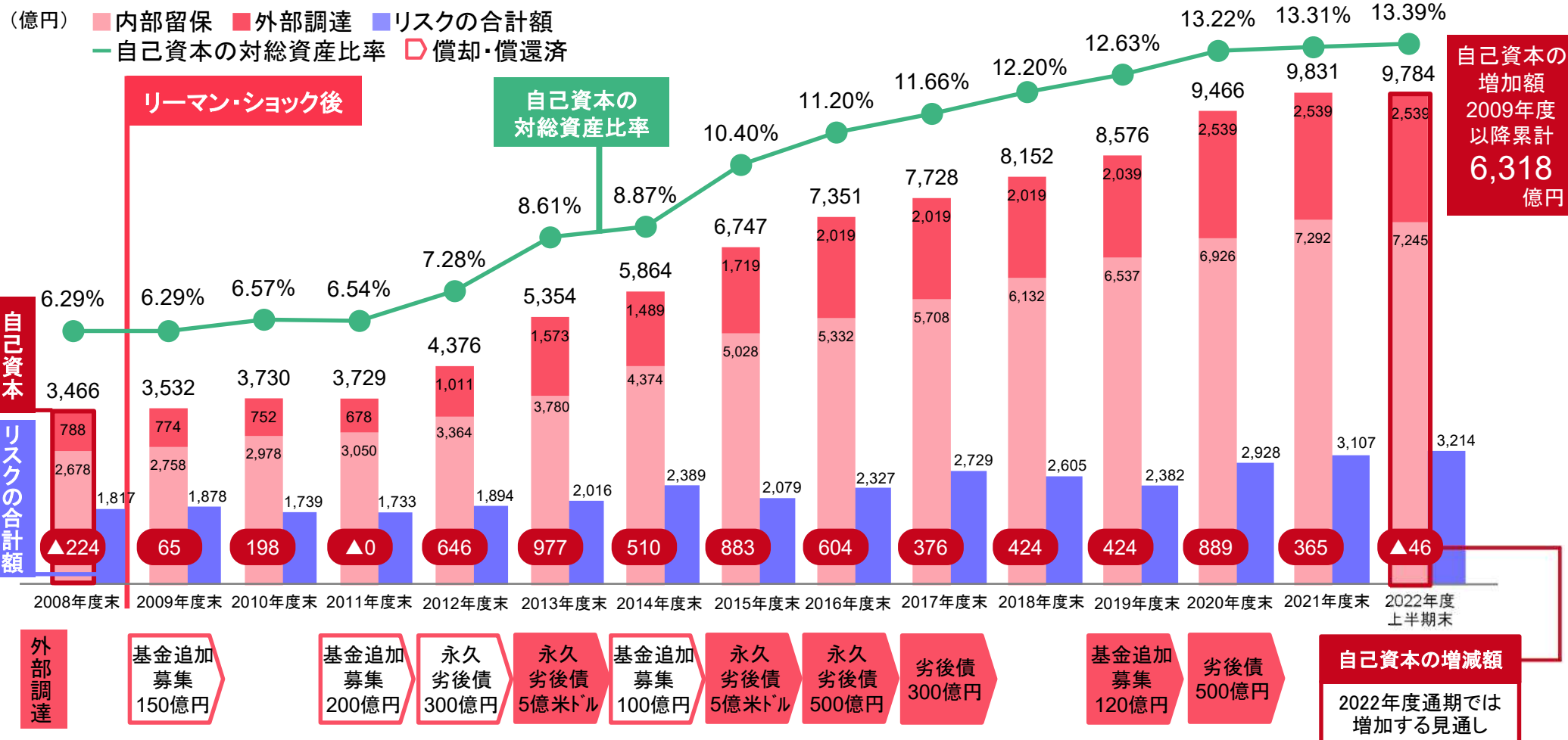
(注)・ESRとは、経済価値ベースの自己資本のリスク(信頼水準99.5%、税効果反映後)に対する比率である。当社では、同指標の経営への活用において先行している欧州の手法に準拠したものを、統合的リスク管理(ERM)に用いている

・2022年度上半期末(速報値)は、保険負債やリスクの一部について簡便法を用いて計算している

オンバランスの自己資本強化と統合的リスク管理の推進

- ◆ いかなることがあってもゆるがない強固な財務基盤を構築すべく、経常利益による内部留保の積上げを第一義とし、適時、外部調達を行うことで自己資本を強化
- ◆ 2022年度上半期末の自己資本は、新型コロナウイルス感染拡大(第7波)の影響により、前年度末比46億円減少
- ◆ 統合的リスク管理(ERM)を着実に進め、保険金等の確実な支払いと配当還元の充実を通じ、ご契約者に安心・満足を提供

自己資本の内訳および自己資本比率(富国生命単体)



【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)

	2020年度上半期	2021年度上半期		2022年度上半期	
				増減率/pt	増減率/pt
新契約高 ^(※1)	6,868億円	8,963億円	30.5%	8,302億円	▲ 7.4%
富国生命	6,438億円	8,151億円	26.6%	7,213億円	▲ 11.5%
フコクしんらい生命	430億円	811億円	88.8%	1,088億円	34.2%
新契約年換算保険料 ^(※1)	76億円	115億円	49.9%	135億円	17.3%
富国生命	53億円	66億円	23.1%	68億円	3.8%
フコクしんらい生命	22億円	48億円	2.13倍	66億円	35.7%
保険料等収入	2,889億円	3,270億円	13.2%	3,975億円	21.6%
富国生命	2,484億円	2,521億円	1.5%	2,960億円	17.4%
フコクしんらい生命	404億円	748億円	84.9%	1,014億円	35.6%
基礎利益 ^(※2)	273億円	352億円	28.6%	108億円	▲ 69.3%
富国生命	280億円	361億円	28.6%	113億円	▲ 68.6%
保険関係損益	253億円	215億円	▲ 15.1%	▲ 93億円	—
利差	27億円	146億円	5.33倍	206億円	41.7%
フコクしんらい生命	▲ 6億円	▲ 9億円	—	▲ 5億円	—
	2020年度末	2021年度末		2022年度上半期末	
			増減率/pt		増減率/pt
保有契約高 ^(※1)	27兆17億円	26兆8,166億円	▲ 0.7%	26兆7,256億円	▲ 0.3%
富国生命	24兆7,643億円	24兆6,501億円	▲ 0.5%	24兆5,581億円	▲ 0.4%
フコクしんらい生命	2兆2,374億円	2兆1,664億円	▲ 3.2%	2兆1,674億円	0.0%
保有契約年換算保険料 ^(※1)	5,488億円	5,488億円	▲ 0.0%	5,493億円	0.1%
富国生命	3,785億円	3,731億円	▲ 1.4%	3,713億円	▲ 0.5%
フコクしんらい生命	1,703億円	1,756億円	3.1%	1,779億円	1.3%
連結ソルベンシー・マージン比率	1,303.9%	1,274.3%	▲ 29.6pt	1,142.6%	▲ 131.7pt
富国生命	1,261.6%	1,234.2%	▲ 27.4pt	1,105.8%	▲ 128.4pt
フコクしんらい生命	1,084.9%	1,117.1%	+ 32.2pt	1,075.2%	▲ 41.9pt

※1 個人保険と個人年金保険の合計

※2 過年度分は2022年度と同一の基準で算出している